

琉球大学学術リポジトリ

北京自由市場に見る(中国雑感)

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 久保, 久 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017407

-北京自由市場に見る- (中国雑感)

久保 久

注：講演者が3年余の北京勤務時代（1987-1990）、趙紫陽氏に指導されて成熟しつつあった「自由市場」で、垣間見た、そして感じた事柄を、それまでの仕事体験に照らして、また今後益々緊密化するであろう琉球との関係に思いを巡らせながら、放談形式で行う。
要点は概略以下となる。

はじめに

中国の活気、自由市場

物は何処から来るの？
最初八折、以後小算一点々？

国内での輸送手段をどう確保するか

便利屋さん
トラック
鉄道
航空機による輸送
急務は保冷輸送手段

国際輸送（貿易）物品

輸出・・・鉱石等天然資源、生鮮野菜類魚介類等、繊維製品など
輸入・・・工作機械、プラント関連機器類、電子機器類（制限）

輸出の留意点

確実、安全（梱包輸送技術改善）、早くなくとも約束の期日に
品質、安定供給、安定価格（安いことが好ましいが．．．）
国際貿易の仕組みへの参加

物流は造りだすもの

Physical Distribution Management の認識

Cost & Profit

市場戦略、市場の

Distribution Center の位置づけ、そして利益などの考察

5年、10年先、日本と中国の物の流れは？

（沖縄の地理的位置づけ）

— — メ モ — —

講演者略歴

1935年生まれ。1950年、日本航空（株）入社、福岡支店の航空貨物運送・営業を経て、東京空港支店（羽田）で国内、国際貨物運送業務、その後、本社、新空貨物港ターミナル開発室に於いて、成田の日航貨物施設及びEDPS開発を行った。このビッグ・プロジェクト終了後、大阪支店貨物予約販売業務、また本社に戻って、大蔵省／関税局及び東京税関が司掌開発する「NAC-C S」開発作業に従事し、航空会社作業部会長も勤めた。

以上の経験から航空による物流システム、その施設・設備のあり方、物流の情報管理、経営管理に関するEDPSの知識を得て、その後の日本航空（株）の貨物施設と貨物EDPS開発作業に従事した。

沖縄との関わりは、1981年春、沖縄支店貨物販売マネジャー兼沖縄空港支店貨物郵便課長として赴任、1984年秋までの勤務である。その間、沖縄からの貨物として、マグロ、さやいんげん、おくら、早出し蜜柑等、また、とりわけ春の彼岸をピークとする生菊花の輸送について、DC-8貨物専用便を導入し（1992-8-19 琉球新報）これは今日まで続いている。このようなことで沖縄勤務は思い出深い。琉球大学の農学部、秋永孝義先生のご交誼を得たのもこの時期である。航空輸送技術について、湿度、温度、などについて喧々囂々議論した思い出も懐かしい。

1997年夏、日本航空（株）北京空港所長として、中国・首都北京に赴任、1989年5月、日本航空（株）上海支店へ出張、帰北した6月4日早朝に天安門事件が発生した。日本人を含む中国からみた外国人の北京脱出期間を無事乗りきったが戒厳令下北京で航空機の往来の再開を待つ間がやや辛い期間であった。中国が開放自由経済の路線を歩み、「自由市場」が成熟しつつあった期間、物の生産と物の流れ、市場に現れる新しいもの、値段、そして変化する人、社会、その他の諸々多くの事を学べた貴重な期間であった。

今秋（1992/11/05---11/09）懐かしい北京をたずね、日本人、中国人の友人と旧交を温めると共に新しい知識も得て帰国した。

現職：日本航空（株）名古屋空港支店・支店長代理。参事